

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里（富士山ユニット）		
所在地	静岡県御殿場市北久原578－3		
自己評価作成日	令和6年6月10日	評価結果市町村受理日	令和6年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&irvosyoCd=2291200059-00&ServiceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)第三者評価機構静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族や地域の方に気軽に足を運んでいただけるよう、家庭的で温かい雰囲気づくりを心がけるとともに、日中は玄関を施錠せずご利用者の気の赴くままに行動していただけるよう、ひとりの人としての尊厳を大切に寄り添ったケアを提供できるよう努めています。

また、日々の生活の中でご利用者ひとりひとりの能力を見極め、職員が黒子的な存在となることで、過度な介入はせず、ご利用者自身が主体となり日々の生活を送っていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

真冬には最低気温がマイナスとなる日もある地域ですが事業所の中は穏やかな空気が流れていて、「家庭的で温かい雰囲気づくりを大切にしている」事業所です。例えば歌好きな利用者から「発表(披露)してみたい」と声が挙がると、毎日歌の時間を設けて「リンゴの唄、や「青い山脈」を繰り返し練習していて、リビングテーブルの上に「6月の歌」のメモがあることが活動への熱意を物語っています。他にも「年越しそばを打ちたい」には、利用者家族の支援を得て、願いを叶えた例もあります。本人は「今回は上手にできなかったが、来年こそは」と意気込んでいて、自己有用感につながる取組みが多数みられることに安心感が満ちます

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に出勤者全員で「理念」「行動規範」を復唱することで、共有と実践に繋がっている。	「理念」「行動規範」は事務室の入口に貼りだし、朝礼で読み上げるほか、キリスト教に基づく理念であることから牧師の説話を聞く機会もつくっています。利用者と共に楽しむ様子がそこかしこにあることに、理念の実践を管理者は感じています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は可能なかぎり散歩へと出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、世間話をされている。また、近所のスーパーへ買い物へ行き、知り合いの方に出たり、店員の方と顔馴染みの関係ができています。	植栽の手入れや、サツマイモの栽培方法の指導に来所くださる人たちが近隣にはいてくださり、事業所では助けられています。スーパーマーケットにはマンツーマンで出掛け、お茶菓子を選んでもらい、また目にして「食べたい」というものもできる限り実現させています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、キャラバンメイトに参加するとともに、母体施設で実施している介護教室で講師役となり、認知症理解に向けた話などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活の様子や行事の様子を写真を見ただけながら報告を行っている。また、会議であがったご意見は職員会議の場で共有し、日々の活動に反映できるよう務めている。	運営推進会議には輪番で家族2名にも参加してもらえ、その中では2ヶ月間の活動について報告もおこない、共有を図っています。また事故報告については、地域包括支援センター職員から助言や提案が都度挙がっていて、貴重な向上点となっています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催している勉強会やサービス提供事業所意見交換会などに参加し、情報共有を行っている。また、認知症サポーターの一員として活動に参加したり、「見守りネットワーク」へと登録し、行方不明者の捜索協力も行っている。	御殿場市の「見守りネットワーク」へと登録し、行方不明者の捜索協力にあたっており、個人で登録している職員もいます。ゴミ出しや買い物時にも気にかけるほか、捜査協力も1週間に1回程と頻回に入ってきており、休暇中にも協力する職員もいます	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「不適切ケア」に着目し、定期的に開催している委員会内で、日々行っている行為に対して振り返りの場を設けるなどし、「身体拘束ゼロ」に向けた取り組みを職員全体で行っている。	「身体拘束適正化検討委員会」を四半期毎に、「身体拘束・虐待防止委員会」は半年に1回開催して、法令遵守と適正化に努めています。また施錠をしないことは大切な方針として、リスクは家族に伝えたくえで納得の伴う入所につなげています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、虐待に理解と防止について学ぶとともに、新たに設置された委員会内で、日頃のケアの方法についての振り返り等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設け、必要性は理解しているが、活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用料金の変更やリスクマネジメントに関する内容は、ご利用者・ご家族のご家族の方に丁寧に説明を行うよう心がけている。また、不明な点がある場合は気軽に問い合わせいただけるお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的にご家族と連絡を取り合うことで、安心してサービスをご利用していただけるよう心がけるとに、ご家族やご利用者が意見等を発しやすい雰囲気作りをに配慮している。	そば打ちの要望に利用者家族が来所くださる例をはじめとして、家族との相互協力が日常に在ります。また「誕生日はその日にお祝いする」「大事なことなので合同ではやらない」等、事業所の一つひとつの姿勢に共感と感謝があることは家族アンケートにも滲んでいます	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞き、職員全員で改善策などを検討し、質の向上に努めている。また、玄関先に意見箱を設置し、人前で発言しづらい方への配慮も行っている。	グループ会議と名付けた職員会議を通じて業務のみなおしをおこない、職員意見を吸い上げています。「休憩がとりにくい」という意見には幾度かシミュレーションに取組んで「取りやすさ」について検証したことがあるほか、職員の意見箱の設置もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に関しては時間外労働などが増えないように勤怠管理や人員配置に配慮している。また、給与等に関しては人事評価制度を導入し頑張る職員が評価され、それが給与等の待遇に反映される仕組みを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めている。また、個人の力量を見ながら必要な研修を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他の事業所との共同会議を定期的開催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族や関係サービス提供者に可能なかぎり、詳細な情報収集を行い、職員間で情報共有を図り、ご利用者の人となりを理解し、受容・傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望などにしっかりと耳を傾け、ご利用者とともに安心していただけるように努め、ご利用者の日々の様子はこまめにお伝えするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接等を通じ、ご本人・ご家族双方の意向をしっかりと確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩で常に敬意をはらうことを忘れず、時にはご利用者から知恵を授かるなど、互いに支え合うという気持ちでご利用者と生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡をとりながら、ご利用者にとって必要な場合にはご家族に面会に来ていただくなどして、ともに支えていく関係性を築き上げるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者にとって馴染みの人(お孫様や近所の方など)が定期的に面会に来られたり、桃の節句・端午の節句など昔から慣れ親しんだ季節行事を楽しんでいただけるように努めている。	便りやオンライン面会の実施により家族との関係継続に努めてきましたが、本年6月より居室での面会が再会しています。利用者本人も直接顔を合せる事が叶い、また職員も家族に普段の様子を伝えることができ、家族の安心と職員の励みになっています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を通じ、時には喧嘩をし、互いに助け合いながら生活が送れるよう環境づくりなどに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へと移行された方に関しては、定期的に特養へと様子を伺いに行きながら、相談員やスタッフとも情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が発した言葉を大切にし、職員間で連携を図りながら可能なかぎり希望を実現できるよう努めている。	利用者がこぼした言葉や、会話から掴んだことは、生活記録へその日のうちに残しています。また毎月開催するグループ会議では、「ご利用者情報」を基に担当者から報告がおこなわれ、排せつ方法の見直しの検討などに実っています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用しているサービス提供事業者などからできるかぎり、詳細な情報収集を行うとともに、センター方式の一部を活用することにより、その方の人となりを理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定や食事摂取量の把握のみならず、ご利用者の表情や行動など、日頃より観察することで些細な変化に気づき、できるだけ早期に対応できるよう職員間で情報共有を図るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・担当職員を中心に毎月行われている会議内などにご利用者の現状を話し合い、支援方法の見直し等を行っている。	訪問リハビリは家族が探し出してくださる例もあり、介護計画書には外部資源の活用が見られます。また「個性をもたせる」ことを重視して、居室担当者がまずはA4版で簡易プランを作成することも長年続けていて、パーソン・センタード・ケアが定着しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々の生活記録を入力し、特記事項や気づきを記載するとともに、連絡ノートを活用し職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の訪問マッサージを利用されたり、ご利用者・ご家族の状況により、日々変化するニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ買い物へ出かけたり、神社へお参りに出かけたりと、地域の方と交流を図ることができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診を基本としつつ、在宅からのかかりつけ医の診察を希望される方は、引き続き受診が継続できるよう支援している。	事業所としては投薬ではなく、環境を整えて認知症の進行を遅らせることを基本と考え、健康管理(内科)を主として全員が月2回の訪問診療を受けています。認知症の専門にかかっている人が1名いますが、家族が受診介助くださっています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関をはじめ、母体施設の看護師とも連携を図り、できるだけ早期の段階で受診などの対応をおこなうよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力医療機関の看護師・MSWと情報交換を行い、急変時など速やかに対応できるように努めるとともに、退院時に関しても可能なかぎり早期で受け入れができるよう柔軟な対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前やご利用者の状態変化に応じてその都度、ご家族へ説明を行うとともに、母体施設である特養とも連携を図っている。	メゾネット式の建物なことから階段をつかうとか、調理で包丁を使うなど、認知症支援に力を入れていて、看取りは積極的にこなっていません。そのことは契約時にも家族に説明をおこない、重度化には母体の特別養護老人ホームと連携をしています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修(実技を含む)を行うことで、事業所全体のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に的確な行動をとることができるよう努めている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。	「防災訓練実施要綱」を備えています。また訓練にあたり計画書の作成のみならず、訓練後には「防災訓練報告書」を消防署に提出、春・秋年2回の法定訓練実施を遵守しています。現在外部の立ち合い者はいないため、今後声をかけたいとしています	アルファーマと水1週間分の備蓄はあるものの、他はローリングストックの活用が予定されています。一度、運営推進会議で出席者に現状の備蓄内容を伝え、意見を仰ぐことを期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあるご利用者に対し、常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないことのないよう丁寧な言葉かけを行うよう心がけている。	食事中にお茶をこぼしてしまった利用者の発する「ごめんなさいね」の言葉に、「誰でもこぼすことはあるのよ」「気にしないでいいのよ」と返す周囲の姿に心温まるとともに、日頃から職員が黒子となって関係支援をおこなっていることが視えます		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表に出せるような関係作りを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いせず、ご本人の気持ちや体調面などに十分に配慮しながら、できるかぎりご利用者ひとりひとりに寄り添った支援が行えるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や衣類のみだれに配慮するとともに、できるかぎり着る衣類などご自分で選択していただけるよう心がけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を考えたり、食事の支度や後片付けなど、ご利用者の能力に応じ、できることを行っていただくことで多くの方に関わっていただけるよう支援している。	翌日の朝、昼のメニューを利用者と決めており、普段から希望が通る環境が整えられています。夕食は業者搬入なものの、「野菜はこちらで刻めるように」と予め手配して、利用者の仕事を作っています。お寿司の出前や収穫したサツマイモで天ぷらという日もあります		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量を記録し、スタッフ間で共有するとともに、個々の状況に応じて補助食品などを活用し、不足分を補える支援している。また、可能なかぎりその方に適した食事形態で召し上がっていただけるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事を美味しく召し上がっていただけるよう、食前には口腔体操を行うとともに、歯科医師・歯科衛生士と連携を取り、個々の口腔内の状況に応じた支援を行っている。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり、トイレのサインを見逃さないように心がけている。また、その方にあったパットを使用するようにその都度、職員間で検討を行っている。	介護度が4と5の利用者が1名ずついますが、平均介護度は2.3と壮健な集団で、独歩でトイレに向かう人が7名もいます。紙パンツとパットの併用が基本で、グループ会議で検討を重ね、季節の変化や昼夜などでこまめにパットの種類を変更しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の規則正しい生活を基本とし、便秘改善に良いとされる、食材を活用し可能かぎり薬に頼らず、自然排便がもよおせるよう支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴を基本としつつ、便失禁等で汚れてしまった場合などは臨機応変に入浴していただけるよう、また、拒否のみられるご利用者に対しては無理強いせず、時間をずらすなど柔軟な対応を心がけている。	「毎日入る」のが常の暮らしと思うと「法定の2日はどうか」ということから、事業所ではプラス1で3日の提供としています。富士山の絵を掲げたり、端午の節句にはしょうぶ湯、冬至にはゆず湯と、季節を感じてもらえる入浴もあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など居室やソファ、畳などで休んでいただけるよう支援するとともに、照明や雑音などにも配慮し、ゆっくり休んでいただけるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をいつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更や追加があった場合は連絡ノート等を活用し、職員間で共有するとともに、記録を残すとともに経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好きな事(歌や塗り絵、縫物など)、楽しめる事、出来る事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いちご狩りや花見外出などへ積極的にお誘いし、四季の移り変わりを肌で感じていただけるよう努めている。	スーパーマーケットへの買い物をはじめ、思い立ったときの近場の外出も臨機です。また誕生日のケーキ提供時にリビングで喫茶店イベントを開催したりと、気分を大切にしています。母体からリフト車を数台借りることができるので、全員での外出も可能としています	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物があればその方のお小遣いで可能なかぎり、職員と一緒に買い物へ出かけられるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から希望があれば電話を掛けられるよう支援を行ったり、お正月に年賀状を出したり、家族から手紙が届いたらお返事を書いていただくよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保つよう努めるとともに、整理整頓、温度湿度調整にも気を配り、季節の花や飾りなどを取り入れた空間作りを心がけている。	全体に木目調で、2階は天窓から柔らかな日差しが下りる穏やかな雰囲気からは、ゆったりと生活を送っていることが伝わります。また、「○○していいですか?」と必ず聞いたうえで関わる職員の姿からも人的環境の良質さがこの空気感を生んでいることを確認しました	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを設置し、ご利用者同士がお話しながらゆっくりくつろいでいただけるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の段階で、可能なかぎりご自宅で使い慣れた家具などをお持ちいただき、ご本人が安心して、心地よく過ごしていただけるような居室づくりに努めている。	家宅にあるものを持ってきてくれるようお願いしていますが、年々プラスチックケースなど新しく購入しての持ち込みが増え、現在は慣れ親しんだものが中心の人と半々くらいです。お祈りのための祭壇がある居室もあり、危険でないものなら自由にしてもらっています	「これまでの暮らし」「その人らしい部屋」が実感できる居室は、家族と本人の許可をもらって写真に収めモデルとして契約時に見せる等、何らかの工夫による持ち込みの増加を期待します
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全面に配慮した環境となっている。居室やトイレには目印となる飾りや貼紙をすることで、ご利用者の考える力を維持できるような環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里（羽衣ユニット）		
所在地	静岡県御殿場市北久原578－3		
自己評価作成日	令和6年6月10日	評価結果市町村受理日	令和6年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&ikvsvsvd=2291200059-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族や地域の方に気軽に足を運んでいただけるよう、家庭的で温かい雰囲気づくりを心がけるとともに、日中は玄関を施錠せずご利用者の気の赴くままに行動していただけるよう、ひとりの人としての尊厳を大切に寄り添ったケアを提供できるよう努めています。

また、日々の生活の中でご利用者ひとりひとりの能力を見極め、職員が黒子的な存在となることで、過度な介入はせず、ご利用者自身が主体となり日々の生活を送っていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

真冬には最低気温がマイナスとなる日もある地域ですが事業所の中は穏やかな空気が流れていて、「家庭的で温かい雰囲気づくりを大切にしている」事業所です。例えば歌好きな利用者から「発表(披露)してみたい」と声が挙がると、毎日歌の時間を設けて「リンゴの唄、や「青い山脈」を繰り返し練習していて、リビングテーブルの上に「6月の歌」のメモがあることが活動への熱意を物語っています。他にも「年越しそばを打ちたい」には、利用者家族の支援を得て、願いを叶えた例もあります。本人は「今回は上手にできなかったが、来年こそは」と意気込んでいて、自己有用感につながる取組みが多数みられることに安心感が満ちます

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に出勤者全員で「理念」「行動規範」を復唱することで、共有と実践に繋げている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は可能なかぎり散歩へと出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、世間話をされている。また、近所のスーパーへ買い物へ行き、知り合いの方に会ったり、店員の方と顔馴染みの関係ができています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、キャラバンメイトに参加するとともに、母体施設で実施している介護教室で講師役となり、認知症理解に向けた話などを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活の様子や行事の様子を写真を見ただけながら報告を行っている。また、会議であがったご意見は職員会議の場で共有し、日々の活動に反映できるよう務めている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催している勉強会やサービス提供事業所意見交換会などに参加し、情報共有を行っている。また、認知症サポーターの一員として活動に参加したり、「見守りネットワーク」へと登録し、行方不明者の捜索協力も行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「不適切ケア」に着目し、定期的に開催している委員会内で、日々行っている行為に対して振り返りの場を設けるなどし、「身体拘束ゼロ」に向けた取り組みを職員全体で行っている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、虐待に理解と防止について学ぶとともに、新たに設置された委員会内で、日頃のケアの方法についての振り返り等を行っている。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設け、必要性は理解しているが、活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用料金の変更やリスクマネジメントに関する内容は、ご利用者・ご家族のご家族の方に丁寧に説明を行うよう心がけている。また、不明な点がある場合は気軽に問い合わせいただけるお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的にご家族と連絡を取り合うことで、安心してサービスをご利用していただけるように心がけるとともに、ご家族やご利用者が意見等を発しやすい雰囲気作りをに配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞き、職員全員で改善策などを検討し、質の向上に努めている。また、玄関先に意見箱を設置し、人前で発言しづらい方への配慮も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に関しては時間外労働などが増えないように勤怠管理や人員配置に配慮している。また、給与等に関しては人事評価制度を導入し頑張る職員が評価され、それが給与等の待遇に反映される仕組みを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めている。また、個人の力量を見ながら必要な研修を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他の事業所との共同会議を定期的に行い、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族や関係サービス提供事業者になかなか、詳細な情報収集を行い、職員間で情報共有を図り、ご利用者の人となりを理解し、受容・傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望などにしっかりと耳を傾け、ご利用者とともに安心していただけるように努め、ご利用者の日々の様子はこまめにお伝えするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接等を通じ、ご本人・ご家族双方の意向をしっかりと確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩で常に敬意をはらうことを忘れず、時にはご利用者から知恵を授かるなど、互いに支え合うという気持ちでご利用者と生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡をとりながら、ご利用者にとって必要な場合にはご家族に面会に来ていただくなどして、ともに支えていく関係性を築き上げるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者にとって馴染みの人(お孫様や近所の方など)が定期的に面会に来られたり、桃の節句・端午の節句など昔から慣れ親しんだ季節行事を楽しんでいただけるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を通じ、時には喧嘩をし、互いに助け合いながら生活が送れるよう環境づくりなどに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へと移行された方に関しては、定期的に特養へと様子を伺いに行きながら、相談員やスタッフとも情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が発した言葉を大切にし、職員間で連携を図りながら可能なかぎり希望を実現できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用しているサービス提供事業者などからできるかぎり、詳細な情報収集を行うとともに、センター方式の一部を活用することにより、その方の人となりを理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定や食事摂取量の把握のみならず、ご利用者の表情や行動など、日頃より観察することで些細な変化に気づき、できるだけ早期に対応できるよう職員間で情報共有を図るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・担当職員を中心に毎月行われている会議内などでもご利用者の現状を話し合い、支援方法の見直し等を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々の生活記録を入力し、特記事項や気づきを記載するとともに、連絡ノートを活用し職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の訪問マッサージを利用されたり、ご利用者・ご家族の状況により、日々変化するニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ買い物へ出かけたり、神社へお参りに出かけたりと、地域の方と交流を図ることができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診を基本としつつ、在宅からのかかりつけ医の診察を希望される方は、引き続き受診が継続できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関をはじめ、母体施設の看護師とも連携を図り、できるだけ早期の段階で受診などの対応をおこなうよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力医療機関の看護師・MSWと情報交換を行い、急変時など速やかに対応できるように努めるとともに、退院時に関しても可能なかぎり早期で受け入れができるよう柔軟な対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前やご利用者の状態変化に応じてその都度、ご家族へ説明を行うとともに、母体施設である特養とも連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修(実技を含む)を行うことで、事業所全体のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に的確な行動をとることができるよう努めている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあるご利用者に対し、常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけることのないよう丁寧な言葉かけを行うよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表に出せるような関係作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いせず、ご本人の気持ちや体調面などに十分に配慮しながら、できるかぎりご利用者ひとりひとりに寄り添った支援が行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や衣類のみだれに配慮するとともに、できるかぎり着る衣類などご自分で選択していただけるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を考えたり、食事の支度や後片付けなど、ご利用者の能力に応じ、できることを行っていただくことで多くの方に関わっていただけるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量を記録し、スタッフ間で共有するとともに、個々の状況に応じて補助食品などを活用し、不足分を補える支援している。また、可能なかぎりその方に適した食事形態で召し上がっていただけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事を美味しく召し上がっていただけるよう、食前には口腔体操を行うとともに、歯科医師・歯科衛生士と連携をとり、個々の口腔内の状況に応じた支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり、トイレのサインを見逃さないように心がけている。また、その方にあったパットを使用するようにその都度、職員間で検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の規則正しい生活を基本とし、便秘改善に良いとされる、食材を活用し可能かぎり薬に頼らず、自然排便がもよおせるよう支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴を基本としつつ、便失禁等で汚れてしまった場合などは臨機応変に入浴していただけるよう、また、拒否のみられるご利用者に対しては無理強いせず、時間をずらすなど柔軟な対応を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など居室やソファ、畳などで休んでいただけるよう支援するとともに、照明や雑音などにも配慮し、ゆっくり休んでいただけるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をいつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更や追加があった場合は連絡ノート等を活用し、職員間で共有するとともに、記録を残すとともに経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好きな事(歌や塗り絵、縫物など)、楽しめる事、出来る事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いちご狩りや花見外出などへ積極的にお誘いし、四季の移り変わりを肌で感じていただけるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物があればその方のお小遣いで可能な限り、職員と一緒に買い物へ出かけられるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から希望があれば電話を掛けられるよう支援を行ったり、お正月に年賀状を出したり、家族から手紙が届いたらお返事を書いていただくよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保つよう努めるとともに、整理整頓、温度湿度調整にも気を配り、季節の花や飾りなどを取り入れた空間作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを設置し、ご利用者同士がお話しながらゆっくりくつろいでいただけるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の段階で、可能な限りご自宅で使い慣れた家具などをお持ちいただき、ご本人が安心して、心地よく過ごしていただけるような居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全面に配慮した環境となっている。居室やトイレには目印となる飾りや貼紙をすることで、ご利用者の考える力を維持できるような環境づくりに努めている。		